

一 高嶺三吉略歴

- 一八六二（文久二） 八月、加賀国金沢に士族であった高嶺清定の次男として生まれる。
- 一八七六（明治九） 石川県立啓明学校入学。
- 一八七八（明治十一） 石川県立中学師範学校普通学科入学。
- 一八八〇（明治十三） 石川県立専門学校文学科入学。哲学史、理財学等を学ぶ。
- 一八八二（明治十五） 石川県立専門学校文学科卒業。同校の英語教員となる。
- 一八八三（明治十六） 東京大学文学部哲学科に選科生として入学。
- 一八八七（明治二十） 五月に脳症を発病。七月、永眠。

なお、一八八八（明治二一）年、友人たちにより「印度哲学」「降霊術を論す（スピリチュアリズム）」を収録した『高嶺君遺稿』が出版された。「降霊術を論す」は英文で書かれていたが、本書では高嶺の同窓であった清沢満之（一八六三～一九〇三）と岡田良平（一八六四～一九三四）によって日本語に訳されている。また、本文の後には、吉谷覚寿により「風裏落花亦可憐 一朝辞世去黄泉 昔時談笑猶如夢 独对遺編淚潜然 哭高嶺学生之死」という文言が寄せられている。